

教職員結果

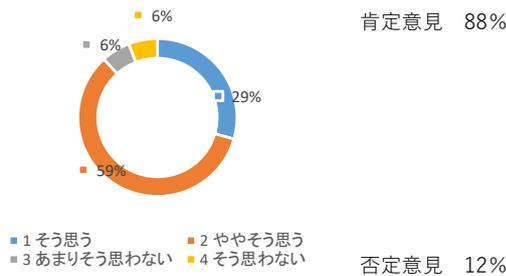
令和6年11月21日～令和7年1月25日 実施結果

令和6年度東京都立砂川高等学校（通信制課程） 学校評価アンケート（教 回答数17名 回収率100%（R5年度と同率）

- 考察
- (1) 12問のうち肯定意見100%が3問（スクーリング、授業内容&生徒対応、進路相談対応）全職員の自負の部分の表出と思われる
 - (2) 12問のうち、肯定意見90%以上が3問（外部人材のサポート、学習支援システム、ライフワークバランス）
 - (3) メディア視聴に関する肯定意見は保護者は55%、生徒55%、教員70%である→改善項目と考えられる。
 - (4) 評価方法基準の理解、レポートを自学自習すること、メディア視聴等で否定意見が2割を超えており、改善検討が必要
 - (5) 自由意見はすべて要検討

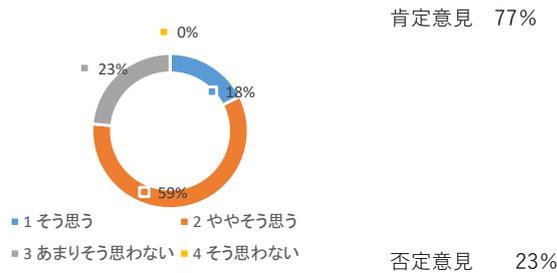
1 本校の生徒にとって通信制課程は、他の課程（全日制や定時制）よりも学習しやすい環境だと思いますか。

- 1 そう思う
- 2 ややそう思う
- 3 あまりそう思わない
- 4 そう思わない



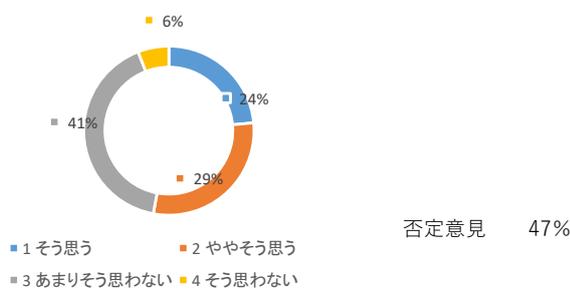
2 生徒は、砂川高校通信制課程の評価方法・基準について理解していると思いますか。

- 1 そう思う
- 2 ややそう思う
- 3 あまりそう思わない
- 4 そう思わない



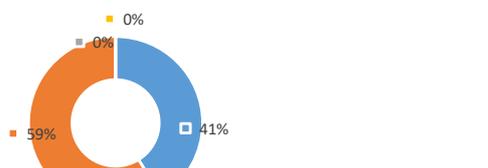
3 生徒はレポート作成において、家族や友人の助けを借りず、一人（独力）で努力している方だと思いますか。

- 1 そう思う
- 2 ややそう思う
- 3 あまりそう思わない
- 4 そう思わない



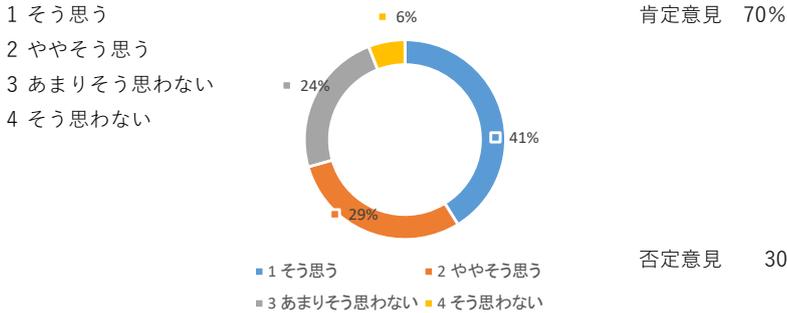
4 生徒は、スクーリングに出席することで、学習のモチベーションが高まり、レポートの作成・提出につながっていると思いますか。

- 1 そう思う
- 2 ややそう思う
- 3 あまりそう思わない
- 4 そう思わない

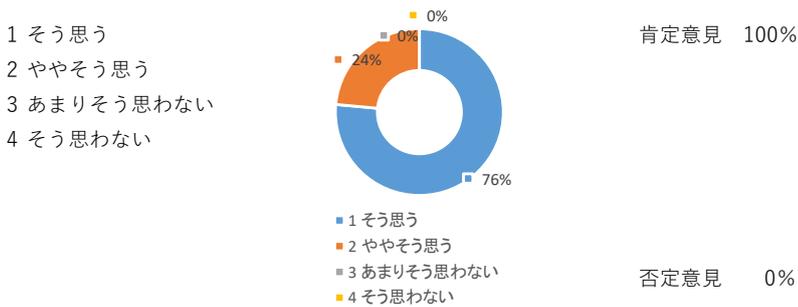




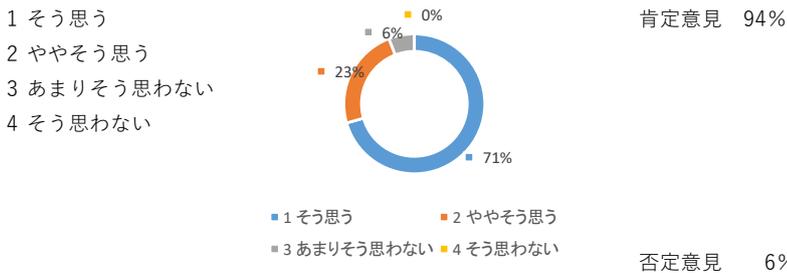
5 生徒はレポート作成において、「NHK高校講座」などのメディアや、インターネットによる学習支援を活用していると思いますか。



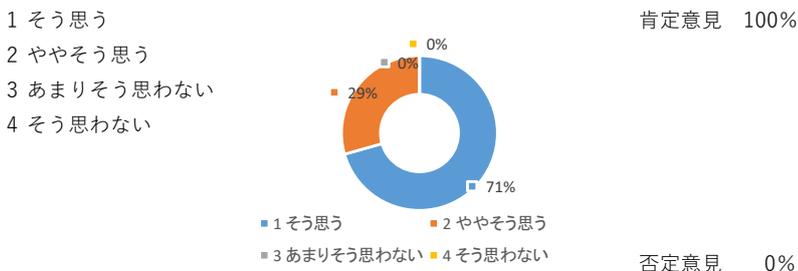
6 あなたは、学びやすいプリントを配ったり、ICTを活用したり、生徒の質問に丁寧に答える等、授業を工夫していると思いますか。



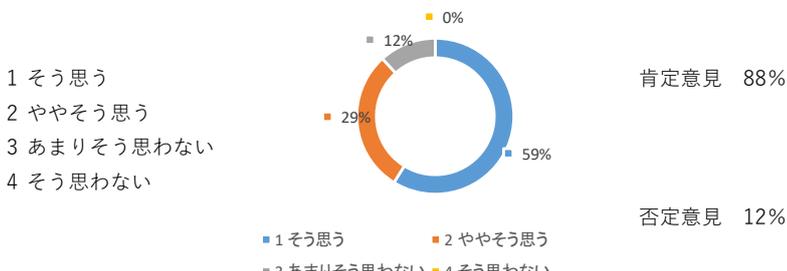
7 スクーリングの日に学習支援や社会生活等の悩みを相談ができる「退職教員ボランティア」や「スクールカウンセラー」や「ユースソーシャルワーカー」等が来校していますが、これからもこの支援体制は必要だと思いますか。



8 あなたは、進学や就職の相談に丁寧に対応していますか。

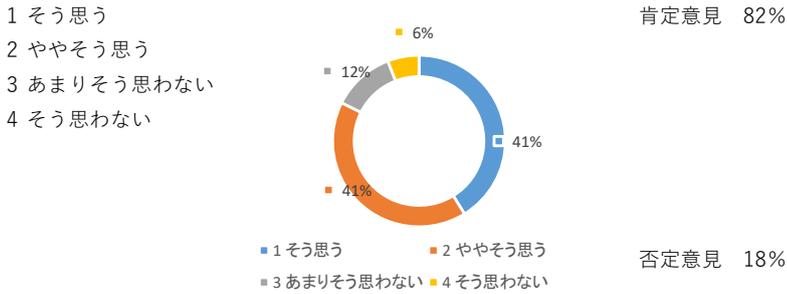


9 本校は、体罰・いじめ防止対策や防災教育及び感染症対策に取り組んでいると思いますか。

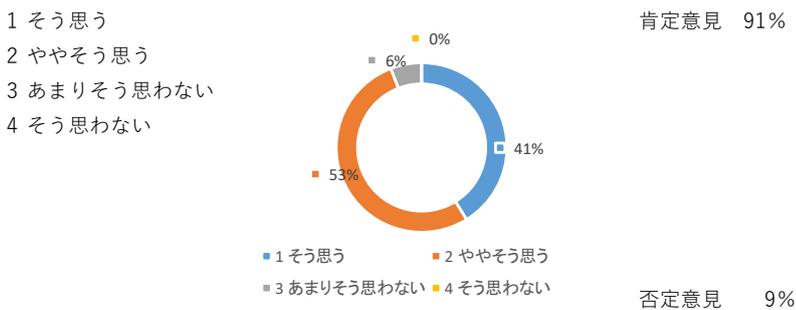


■ 3 あまりそう思わない ■ 4 そう思わない

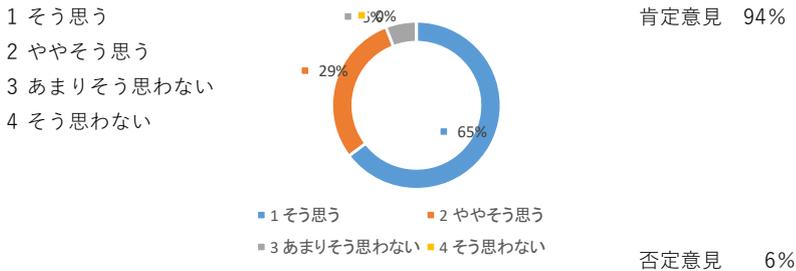
1 0 本校の「ホームページ」や「Teams」、「砂川保護者だより」、「保護者コミュニケーションシステム」を通じて、学校内の様子や必要な情報が生徒・保護者へ十分に伝わっていると思いますか。



1 1 生徒は、「学習支援システム」(Teamsやmocca)に登録を行い、学校からの連絡を確認する等、学習を円滑に進めることができていると思いますか。



1 2 あなたは、ライフ・ワーク・バランスの実現のため、計画的に仕事を進める等、業務の効率化に取り組んでいると思いますか。



自由意見のまとめ

- ・さまざまな生徒に真摯に向き合いサポートしている。この実績は大変尊い。一方で、重い負荷を抱え体調を乱す先生もいることは憂慮。近年の社会変化で、通信制高校に多大な期待が寄せられる中、公立通信制高校ができる様々なサービスをブラッシュアップすることを目指したい。そのために、正規職員15名が、適切に協力し、効率良い働き方ができるようにすることが喫緊の課題（ほぼ同趣旨の意見多数）
- ・教員が少ない中、細やかに個々の生徒対応をされている先生が、大変多いと感じます。できれば、教員増、または、支援員の増員などで、教員が、もっと生徒対応できる環境ができればと思います
- ・毎日学校に登校したい生徒、登校することで学習が進む生徒というのは、以前の通信制ではあまりいなかった（勤労学生が基本の時代）と思われる。したがって、砂川高校でもこうした生徒の実態をふまえ、通信制においても毎日生徒が通学できるような環境を整えていく必要があると思います。また、一方で、登校が難しい生徒については、完全オンラインによる単位修得を認める方向について検討をしていく必要があるかと存じます。
- ・生徒に寄り添った教育を進めていると思いますが、簡単に単位が取得できるようにすることは方向性が違うと思います。生徒に会う機会が少ない分、個人面談は丁寧に行ってどうしたらできるかを一緒に考えていくことが必要だと思います。
- ・通信制の過渡期である今、業務を精選し、不要なものはなくし、できる限り業務を簡略化できるようにする必要がある。そして、全教員のライフ・ワークバランスを改善させ、電子レポート作業（添削・次年度レポートの試案等）やスクーリング準備といった教材研究、そして何よりも生徒対応に十分時間を持てるようにする必要がある。